下高橋上野遺跡

福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋所在遺跡の調査概要報告

大刀洗町文化財調查報告書

第 5 集



1 9 9 3

大刀洗町教育委員会

序

大刀洗町は福岡県のほぼ中央部にあります。近年九州横断自動車道が開通、筑 後小郡インターチェンジの直近地にあたり、今後益々の経済発展が約束される町 であります。

本町の埋蔵文化財については、多数の存在が予想されているにもかかわらず調査はあまりされていないことから、その実体はよくわかっていません。ここに概要報告する下高橋上野遺跡は、開発工事にともない発見され、古代の大刀洗町を知るうえで大変重要な遺跡であることがわかりました。

本調査にともない、地権者であるホリデン内山産業㈱、権藤智文氏には文化財に対するご理解とご協力、地元の皆様にもご協力をいただきました。また、北筑後教育事務所馬田弘稔技術主査には惜しみない援助をいただきました。記して感謝申し上げます。

本書が古代史の解明、また文化財保護思想の一助となれば幸いです。

平成5年3月31日 大刀洗町教育委員会 教育長 堀内 剛毅

例 言

- 1 この報告書は福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋3291他に所在する埋蔵文化財 調査の概要報告である。
- 2 本書における現場での実測図は、馬田弘稔、牟田冴子、小城民子、轟規子、 神谷節子、高松栄子、赤川正秀が行った。
- 3 本書における製図は、平田浩子、平田久美子、弥永理恵子及び赤川が行った。
- 4 本書における空中写真はフォトオオツカに依頼し、その他の写真は赤川が撮 影した。
- 5 本書の執筆・編集は赤川が行った。

表紙写真 下高橋上野遺跡全景(南から・空中写真)

I はじめに

本遺跡の調査は平成3年9月地権者から対象地の開発(倉庫・資材置き場建設)にともない 埋蔵文化財の有無の照会に始まる。当時町教委では対応できない状態であった。平成4年4 月、専門職員を採用し、当該地に埋蔵文化財の存在する可能性があることがわかり、地権者へ 埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査の必要があることを申し入れた。試掘調査の結果、掘立柱建物の存在が確認され、本調査が必要なことを地権者に申し入れ、平成4年5月20 日から発掘調査を開始した。

調査の進行にともない大規模な方形の掘方を持つ掘立柱建物群と掘立柱建物群を取り囲むがごとく溝が姿を現し、官衙と判断され大変重要な遺跡であることがわかった。調査は6月20日でいったん中断し、県教委・町教委と地権者とで調査期間の延長・開発の計画変更の協議を行い地権者の了承を得るにいたった。7月22日から調査を再開し、8月23日には現地説明会を行い10月上旬に調査を終了しその後埋め戻しを実施した。

Ⅱ 調査体制

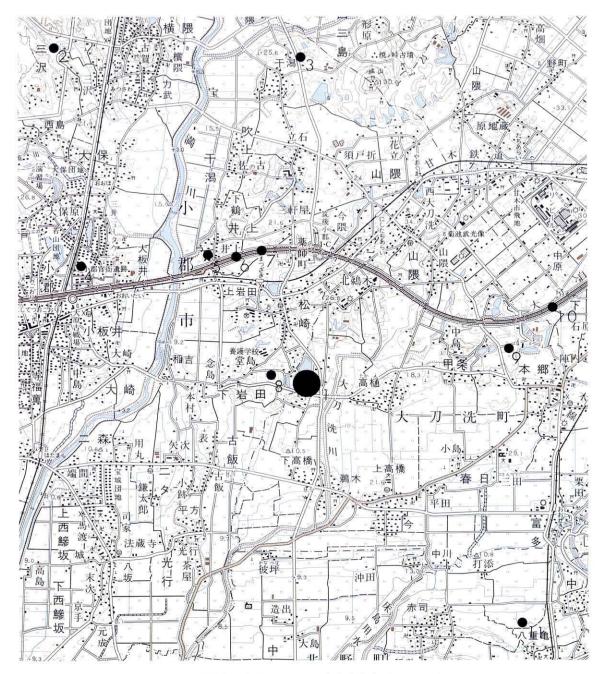
調査は次の陣容で臨んだ。

大刀洗町教育委員会 教育長 堀内 剛毅 教育課長 平山 政之 文化財係 赤川 正秀

発掘調査全般に北筑後教育事務所馬田弘稔技術主査の指導を得た。また、遺跡保存関係に県教委文化課井上裕弘参事補佐にご尽力いただき、地元・関係機関に協力・援助をいただいた。

調査期間中には次の先学諸氏の方々に指導・助言・応援をいただいた。記して感謝に代えさせていただきます。

小田富士雄(福岡大学)、西谷正(九州大学)、高倉洋彰(西南大学)、石野博信(徳島文理大学)、日野尚志(佐賀大学)、池田栄史(琉球大学)、沢村仁、渡辺正気(以上福岡県文化財保護審議委員)、佐々木隆彦、小池史哲、赤司善彦、小川泰樹(以上福岡県教委文化課)、石松好雄、栗原和彦、倉住靖彦、橋口達也、横田健次郎、小田和利、吉村靖徳(以上九州歴史資料館)、新原正典(甘木歴史資料館)、平田定幸(春日市教委)、速水信也、片岡宏二、中島遠也、柏原孝俊(以上小郡市教委)、狭川真一、山村信栄(以上太宰府市教委)、森山栄一(筑紫野市教委)、堀田秀茂(北野町教委)、永見秀徳、小林勇作(以上筑後市教委)、川端正夫、隈部敏明、松尾宏(以上甘木市教委)(順不同・敬称略)



下高橋上野遺跡と周辺の歴史時代遺跡(1/50,000)

- 下高橋上野遺跡 1
- 5 井上廃寺
- 本郷野開遺跡

古賀ノ上遺跡

- 2 三沢栗原遺跡
- 薬師堂遺跡
- 宮原遺跡 10

11

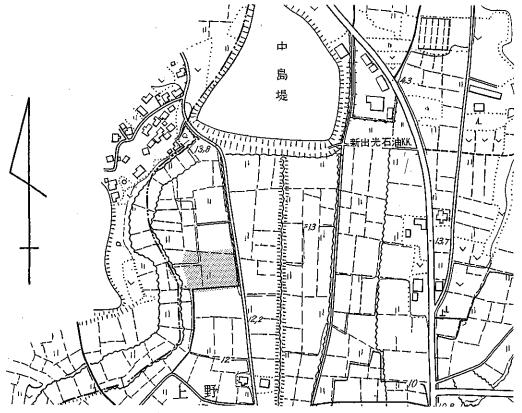
- 3 干渴遺跡
- 薬師堂東遺跡
- 小郡遺跡

Ⅲ 位置と環境

下高橋上野遺跡は福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋3291他に所在し、城山(花立山)を中心とした丘陵と筑後平野の接点ともいえる位置で、西に宝満山中に源する宝満川、すぐ東に城山丘陵からわき出す大刀洗川を望み、背後にやや小高い下岩田丘陵、東西に開けた筑後平野を望む標高約17mの地点に位置する。遺跡のすぐ西側は大刀洗町と小郡市との境である。

遺跡の南に広がる水田は、昨今のほ場整備で失われた感はあるが、条理制の痕跡をよくとどめており、旧御原郡と旧御井郡の郡境も現在の大刀洗町と北野町の町境にほぼ等しく、また郡境地点での条理のズレも日野尚志氏により指摘されているところである。周辺の歴史時代の最も著名な遺跡としては御原郡衙に比定される国指定史跡小郡遺跡、山田寺系瓦を出土した井上廃寺がある。井上廃寺の至近に位置する薬師堂遺跡、薬師堂東遺跡や干潟遺跡でも瓦の出土をみる。

また、甘木市宮原遺跡では多数の掘立柱建物群が調査され、北野町古賀ノ上遺跡は、官衙の 形式をとる掘立柱建物群が布目瓦とともに発見され問題を提起する遺跡である。



下高橋上野遺跡周辺図 (1/5,000)

IV 調査の概要

下高橋上野遺跡は2,500㎡を調査し、次の遺構を検出した。

奈良時代

掘立柱建物(大規模方形掘方)	4 棟	略号	В
掘立柱建物	3棟以上	略号	В
溝	3条	略号	D
土壙墓	1基	略号	R
土壙	5基	略号	K
ピット群		略号	P,
縄文時代			
落とし穴状遺溝	6基(完掘3基)	略号	J
近世			

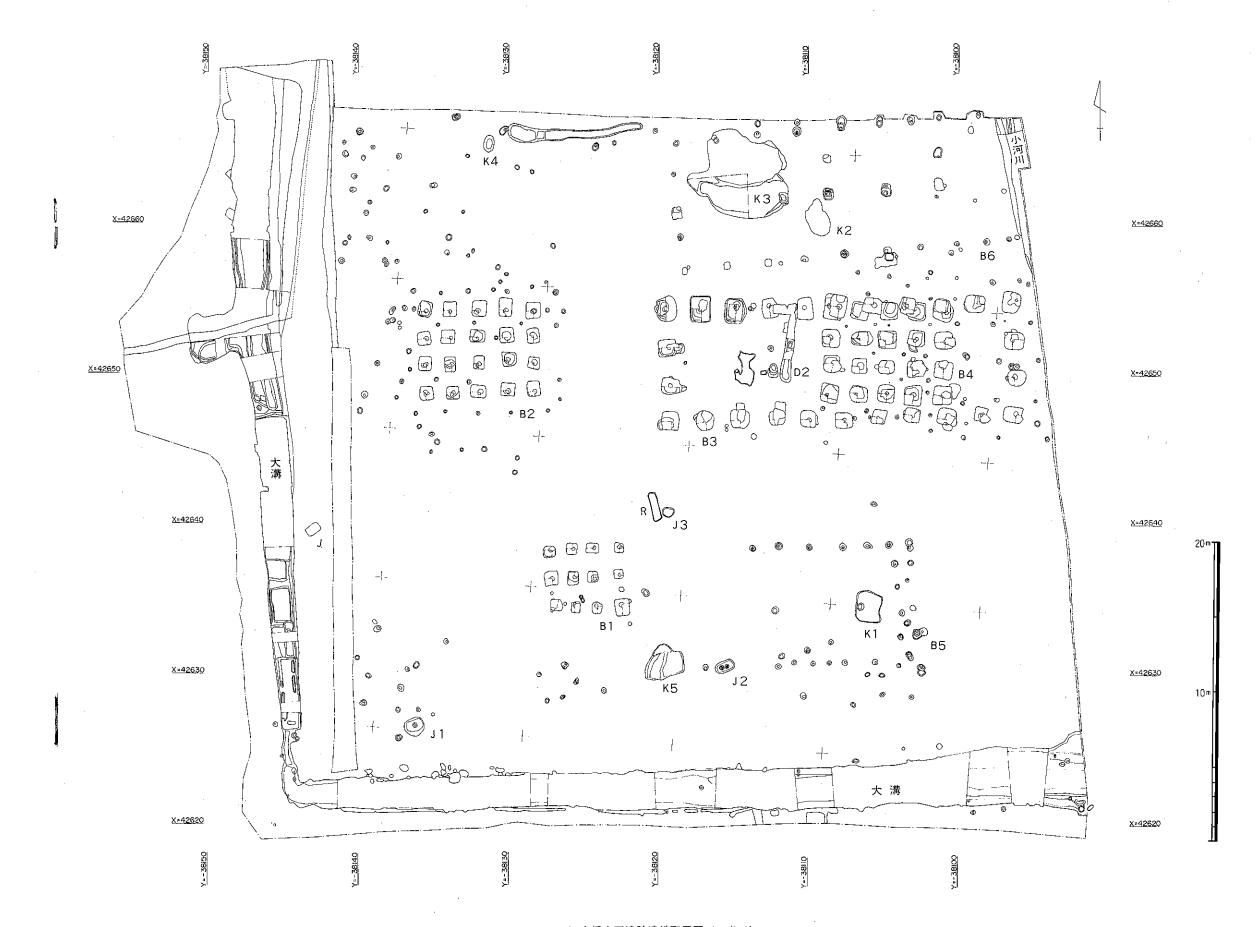
河川跡

なお、掘立柱建物の掘方の略号はPとし、西北部を起点として西から東へ、以下順次南へと 番号を付した。(以下 B 1 例参照)

遺物は出土量が非常に少なく、須恵器・土師器・古瓦がパンケース3箱程度である。なお、 表採遺物に弥生土器があった。以下、概要報告を行う。

掘立柱建物

調査区西南部やや中央寄りで検出。 2 間×3 間の総柱建物。梁行3.89m(約13尺)×桁 行4.6m(約15.3尺)を測る。柱間寸法は不揃いであるが平均で梁行で1.94m(6.5尺)桁行で 1.53m (5尺)を測る。掘方は大規模な方形だが、大きさは不揃いで最大のP12で96cm×111 cmを測れば最小のP8は63cm×60cmで約半分であったり、またP9では掘方そのものが建物中 央に寄っているため柱痕は掘方の中心から大幅にずれ掘方壁に接している。残存深さは33㎝か ら75cmを測る。P12は抜き痕が明らかに認められる。また建て替えの痕跡も認められる。主軸 はほぼ真北。



下高橋上野遺跡遺構配置図(1/250)

B2 調査区中央やや西北部で検出。B1 の西北方約10m離れB1の西梁柱列の延長上にB2の東梁柱列が並ぶ。3間×4間の総柱建物。梁行5.48m(6尺)×桁行7.52m(12尺)を測る。柱間寸法は不揃いで平均では梁行1.82m(6尺)桁行1.88m(6.2尺)を測る。掘方は大規模で、正方形のものと長方形のものがある。最大の掘方は96cm×105cm、最小で69cm×81cmを測り、側柱と比較して東柱は規模が小さい。残存深さは84cmから50cmでP14は37cmと特に浅い。P9には明確な抜き痕が認められる。建物内外にはピットが多数検出され、四面底を持つものか。主軸はほぼ真北。

B3 調査区中央よりやや北部から東側で 検出。B2の東方約9m離れる。B4を切る。3間×10間の側柱の東西に長大な建物。梁行7.52m(8.3尺)×桁行23.06m (7.7尺)、柱間寸法は平均すると梁行2.50m(8.3尺)桁行2.31m(7.7尺)を測る。 遺構確認面は東側がなだらかに低くなって おり、最東端の掘方は残存度が比較的良くない。掘方は大規模な方形で最大のものは P3で、141cm×174cm残存深さは111cmを 測る。14基の掘方で抜き痕が確認され、20 基の掘方で建て替え痕が残る。P6からP 9の間でB4の掘方を切る。主軸は真北からやや西に振れる。



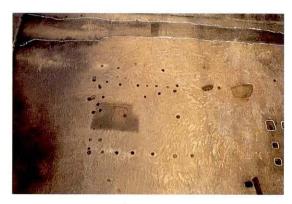
B 1 P 9 断面



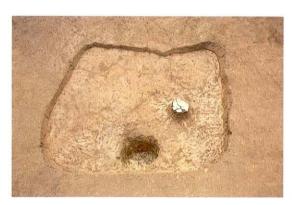
B3P6とB4P1の切り合い



B3とB4の切り合い



B 5 全景(北から)



B 5 内土壙(K1)



B 6 · K 3 全景 (西から)

B 4 B 3 建物の範囲に含まれる。 3 間× 4 間の総柱建物。梁行5.54m(18.5尺)× 桁行7.74m(25.8尺)、柱間寸法は平均で梁行1.85m(6.2尺)桁行1.93m(6.4尺)を測る。掘方は大規模方形の掘方を持つ。最大の掘方は120cm×118cmを測り残存深さは104cmから73cmを測る。同じ3間×4間建物のB2と比較して全体の規模として約30cm(1尺)大きく、また掘方自体の規模も大きい。 8 基の掘方で抜き痕、19基の掘方で建て替え痕を残す。 P 1・P 2・P 3・P 4・P 5 はB 3の掘方に切られる。 B 3 に伴うものか B 4 に伴うものか、または別の遺構かは不明であるが B 4 を中心にピット群を検出した。主軸は真北。

B4の西側に溝D1を検出その中央部には柱穴状の痕跡がある。B3の間仕切かB4関係の遺構かは不明。

B5 調査区東南部にB4建物の南側、B1建物の東側で検出。4間×2(4)間の掘立柱建物梁行7.85m(26.2尺)×桁行9m(30尺)を測る。柱間は東側ほど短くなる。建物内で土師器椀2個体を持った土壙を検出した。主軸は真北。

B6 調査区北東部で検出。B3の北側に位置する。4間×9間以上の長大な掘立柱建物で東に延びる。一部の柱穴はプラン確認のみの調査とした。又中央部にはやや小振りの方形掘方を3基確認したが、対になる柱穴は検討を要する。主軸は真北より5度ほど西に傾く。

大溝 発掘区西南隅で「L」字形にほぼ直 角に曲がり、東西・南北方向に発掘区外ま で延びる。幅は約2mを測る「U」字溝。 深さは南面の東西方向の部分で約1m。西 側の南北に延びる部分は南側で深さ15㎝か ら25cmほどと浅く中央付近では溝内に土壙 状の遺構が掘り込まれている。中央よりや や北の部分で溝が西側に張りだした状態で 検出した。不整形の土壙が営まれたもの か。この部分はB2建物の北側桁柱列の延 長上。南西部の直角部分は幅が極端に狭く なり62㎝ほどの幅となる。また西側では溝 に張り出すように凸状の張り出しが6個所 あり、内4は溝の両岸にあり対になってい ると思われる。西南コーナー部隅で須恵器 杯蓋完形品が出土。

土壙 5 基の土壙を検出。いずれも瓦や土 師器などを出土している。 K 3 は最大の土 壙で調査区北端で検出。埋土の状態から楕 円形の 2 土壙が切り合っている。

土壙 (墓) B1の東北部にやや離れた位置に2 基検出。須恵器杯蓋の2セットが出土。

落とし穴状遺構 調査区全体で5基確認、 内3基調査した。J1は長方形の掘方に小 穴を1確認。J2はやや細長い長方形の掘 方に小穴2を確認。J3は82cm×63cm楕円 形で深さ127.5cmを測る。小穴は確認でき なかった。



大溝西南部



大溝コーナー部遺物出土状態



土壙墓

河川 発掘区東北隅で検出。大部分は現在の町道の下に延びる。砂利層と金糞の堆積から小河川(溝)とした。染め付け磁器・瓦の出土を見る。

∇ おわりに

下高橋上野遺跡の掘立柱建物群及び滞は今後問題を提起するものである。現在までのまとめとして、

- 1 B1・B2・B3・B4・B5の掘立柱建物群は、主軸をほぼ真北に向けて建てられている。
- 2 B2とB4は東西に19.6m(約65尺)離れて並ぶ。
- 3 B2とB4の間の中心点から真西・真南方向の溝までの距離はいずれも約27m。
- 4 B3はB4を切る(B3はB4より新しい)。
- 5 B 6 は建物の主軸は他の建物とはやや違う(後出するものか?)。
- 6 溝は西南隅で直角に曲がり、東西・南北両方向に延びる。この溝は本遺跡の南側にみられる条理跡の推定延長上に一致する。
- 7 出土遺物は極めて少なくパンケースに約3箱である。
- 8 土壙墓から出土した須恵器は7世紀後半の特徴を持つ。
- 9 溝西南隅で出土した須恵器杯蓋は8世紀代の特徴を持つ。
- 10 出土した瓦は、平瓦・丸瓦があるが、軒先瓦はない。
- 11 出土瓦のたたきは格子目・縄目がある。

などの特徴がいえ、奈良時代の官衙的な性格を持つ遺跡である。

当遺跡は「和名類聚抄」にいう筑後國御原郡に所在するが、御原郡衙は小郡遺跡に比定され ほぼ間違いのないところであり、郡衙の出先の意味も含めて、郷(里)関係の官衙といえよう。

「和名類聚抄」にいう御原郡には長栖・日方・坂井・川口の4郷が記載され、日方=干潟、坂井=大板井・小板井が比定されるが長栖・川口は比定地が不明のままである。北野町古賀ノ上遺跡でも、下高橋上野遺跡と同様の掘立柱群が発見され、「和名類聚抄」にいう御井郡大城郷が比定できることから、下高橋上野遺跡も比定地不明の郷または「和名類聚抄」に記載されていない郷の官衙といえないだろうか。

注 古賀ノ上遺跡については北筑後教育事務所馬田弘稔氏、北野町教委堀田秀茂氏から教示。

下高橋上野遺跡

大刀洗町文化財調査報告 第5集 平成5年3月31日発行

発行 大刀洗町教育委員会 福岡県三井郡大刀洗町大字冨多819

印刷 株式会社西日本新聞印刷

